

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	言語とコミュニケーション総合I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	401教室
担 当 教 員	小山 正	実務経験とその関連資格	京都市児童福祉センターにおいて約9年間、心理判定員、療育部門での心理セラピストを務めた。また、大学において、教育・研究活動と共に言語発達相談を行ってきた。(臨床発達心理士、臨床心理士、公認心理師)			
《授業科目における学習内容》						
言語獲得過程に関する最近の研究を紹介しながら、定型発達の子どもの言語獲得の過程について理解を深める。本講義では、言語獲得過程に非定型性を示す事例への支援につなげるため、言語獲得の前提条件や個人差、多様性についても理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(100%)によって評価します。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
テキスト:『言語発達』 小山 正(著) ナカニシヤ出版 2018年						
《授業外における学習方法》						
①授業中に指示したテキストの箇所を読んで復習しておくこと。 ②小レポート、確認テストを課すことがあるので、授業中に提示した問題について考え、整理しておくこと。 ③各回資料以外に、まとめのプリントを配布しますので、整理に役立ててください。						
《履修に当たっての留意点》						
言語発達の過程は複雑です。まず、そのプロセスを理解していくことが、言語発達に障がいをもつ子どもへの支援・訓練、それにつながる評価を行うことができます。各回の授業内容は言語発達障がいをもつ事例への支援につながります。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	前言語期の発達について説明できる。	テキスト第1章	テキストの第1章を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	前言語期の発達に関して近年の研究を通して学ぶ。			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	象徴機能について説明できる。	テキスト第1章	テキスト、第1章1-9頁を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	象徴機能の発達とその障害について理解を深める。			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	指さし行動の発達の意義について説明できる。	テキスト第2章	テキスト、第2章。	
		各コマにおける授業予定	指さしの診断的意義や言語学習との関連性について学ぶ。			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	言語学習の認知的基盤について説明できる。	テキスト第3章	テキスト、第3章を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	この回では、言語学習に関する諸理論について学ぶ。			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ダイナミック・システムズ・アプローチについて説明できる。	テキスト第3章□ □	テキスト、第3章-8を予め読んでおく。	
		各コマにおける授業予定	言語獲得過程に関してダイナミック・システムズの見方が説明できる。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	初語期の発達について説明できる。	テキスト第4章□ □	テキスト、第4章を予め 読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	前言語期における理解や身振りの発達との関連性について学ぶ。		
第7回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	1語発話期の発達について説明できる。	テキスト第5章	テキスト、第5章を予め 読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	この回では、言語学習に関する理論について学ぶ。		
第8回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	1語発話期におけるボキャブラリースパートについて説明できる。	テキスト第6章	テキスト、第6章を予め 読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	語彙の急増、ボキャブラリースパートに関わる発達について学びます。		
第9回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	シンタクスの出現と初期の発達について説明できる。	テキスト第7章	テキスト、第7章を予め 読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	2語発話期から多語発話期の発達について理解を深めます。		
第10回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	初期言語学習過程における個人差について説明できる。	テキスト第8章	テキスト、第8章を予め 読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	言語学習過程における個人差と多様性について学びます。		
第11回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	他者理解の発達と言語学習の関連性について説明できる。	テキスト第9章	テキスト、第9章を予め 読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	心の理論や他者理解の発達と言語学習との関連性について学びます。		
第12回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	文字言語の獲得について説明できる。	テキスト第10章 3,4	テキスト、第10章-3,4を 予め読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	文字の読み・書きの発達について学ぶ。		
第13回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	言語と思考との関係について説明できる。	テキスト第10章	テキスト、第10章を予め 読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	内言の発達との関連で、言語による思考について学びます。		
第14回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	人間発達と言語について説明できる。	テキスト第9,10章	テキスト、第9,10章を予 め読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	人間発達における言語獲得の問題について学ぶ。		
第15回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	言語獲得過程における足場づくりについて説明できる。	テキスト第1章-6	テキスト、第1章-6を予 め読んでおく。
		各コマに おける 授業予定	本講義の振り返りと総括を行い、有効な言語発達支援について理解をさらに深める。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	言語とコミュニケーション総合I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	401教室
担 当 教 員	小山 正	実務経験とその関連資格	京都市児童福祉センターにおいて約9年間、心理判定員、療育部門での心理セラピストを務めた。また、大学において、教育・研究活動と共に言語発達相談を行ってきた。(臨床発達心理士、臨床心理士、公認心理師)			
《授業科目における学習内容》						
言語獲得過程に関する最近の研究を紹介しながら、定型発達の子どもの言語獲得の過程について理解を深める。本講義では、言語獲得過程に非定型性を示す事例への支援につなげるため、言語獲得の前提条件や個人差、多様性についても理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験 (100%) によって評価します。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
テキスト:『言語発達』 小山 正 (著) ナカニシヤ出版 2018年						
《授業外における学習方法》						
①授業中に指示したテキストの箇所を読んで復習しておくこと。 ②小レポート、確認テストを課すことがあるので、授業中に提示した問題について考え、整理しておくこと。 ③各回資料以外に、まとめのプリントを配布しますので、整理に役立ててください。						
《履修に当たっての留意点》						
言語発達の過程は複雑です。まず、そのプロセスを理解していくことが、言語発達に障がいをもつ子どもへの支援・訓練、それにつながる評価を行うことができます。各回の授業内容は言語発達障がいをもつ事例への支援につながります。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第16回	授業を通じての到達目標					
	各コマにおける授業予定					
第17回	授業を通じての到達目標					
	各コマにおける授業予定					
第18回	授業を通じての到達目標					
	各コマにおける授業予定					
第19回	授業を通じての到達目標					
	各コマにおける授業予定					
第20回	授業を通じての到達目標					
	各コマにおける授業予定					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第22回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第23回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第24回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第25回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第26回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第27回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第28回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第29回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第30回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			